

第2回 いしかり eco 未来会議 開催結果報告書

1. 開催概要

日時：令和2年2月19日（水） 18：30～20：30

場所：石狩市役所 401 会議室

参加者：8名

講師 北海道大学大学院 工学研究院循環共生システム研究室 石井 一英 氏
事務局 石狩市環境政策課 3名、(株)KITABA 3名

時刻	プログラム
18：30	開会のあいさつ
18：35	■情報提供(石狩市より) <ul style="list-style-type: none">・本日のプログラム・第1回会議の振り返り・石狩市の「低炭素」・「資源循環」に関する環境の現状と課題等
18：50	■Eco 講座(石井 一英 氏より) <ul style="list-style-type: none">・資源循環に係る世界目線の問題や先進事例・本市においても取り組めるような環境活動など
19：30	■意見交換の進め方・情報提供 <ul style="list-style-type: none">・意見交換の進め方の説明・「低炭素」、「資源循環」に関する取組事例の紹介
19：35	■意見交換 <ul style="list-style-type: none">・テーマ①「低炭素」と「循環資源」について、現状、課題、講師の話聞いての感想・疑問等を共有・テーマ②「低炭素」と「資源循環」について、20年後の石狩市がどうなっていると良いかを考える ■発表
20：25	■統括(石井 一英 氏より)
20：30	閉会 <ul style="list-style-type: none">・事務連絡(アンケートなど)

2. 意見交換の結果

4名のグループに分かれ、「低炭素」と「資源循環」についての現状や課題、講師の話を受けての感想・疑問点を出し合い、その後「20年後の石狩市」についての意見交換を行った。以下に、全体のまとめ及び各グループの意見を整理する。

■テーマ①「低炭素」、「資源循環」について、現状、課題、感想・疑問点等を共有

【再生エネルギーの利活用が可能になっていく】

- ・風力発電などの再生可能エネルギーによる電力の地産地消を進めることで、温室効果ガス排出量を軽減することが可能なため、特に取組が進んでいる石狩市では、今よりも軽減が可能になると思われる。

【水素自動車（FCV）導入の普及体制が整っていない】

- ・全国的に水素自動車（FCV）の普及に係る勢いが弱くなっていると感じている。

【資源循環のイメージ転換が必要】

- ・資源循環は大切なことだと理解しているが、会議等でペットボトルを配布する等、便利な生活に慣れてしまい、普段の生活の中に取り入れていくことは難しい。
- ・家電量販店では、海外製品がリサイクル品よりも安く売られており、資源循環することで逆に価格が高つくイメージがあるため、イメージの転換が必要である。

【環境の意識を高めていくために必要なこと】

- ・市内全体でごみを減らす意識を高めていくには、市からの情報提供があると良い。

【環境への意識の変化について】

- ・市民会議に参加してから、マイボトルを持つことや、コンビニ・スーパー等で袋をもらわない、リサイクル用品店や市内の古着回収に協力する等、環境への意識が高まった。

【講師への質疑】

Q. なぜ廃油を捨てる際には、500mlのペットボトルに入れて出さなければならないのか。

A. 回収・運搬など、処分する事業者側の都合があると思われる。

Q. 低炭素社会と脱炭素社会の違いは何か。

A. 低炭素社会は、温室効果ガス排出量を26%削減することを指し、脱炭素社会は、温室効果ガス排出量を、実質0%にすることを指す。

Q. ペットボトルの蓋を外して分別するのはなぜか。

A. 蓋とそれ以外の部分に使われている原料が違うためである。

Q. ごみ減量に関する市民意識を醸成するためには、市からの情報提供があると良い。

A. どのようなターゲットにどのような情報を提供すると良いか、それらの情報をどこから見つけるのか、提供する側と受け取る側にそれぞれ課題がある。

Q. アメリカや中国などの大国が、環境問題に積極的に取り組んでいないイメージがある。石狩市内で自分たちがいくら頑張っても、どのくらい地球に還元されるのか疑問である。

A. アメリカ、中国や東南アジアにおける環境への取組は進んでおり、今後、より活発になっていくと考えている。その際に、日本は逆に取組が遅れていくかもしれない。

また、日本における環境問題への取組を進めるためには、今後、更に小中学校・高校の環境教育を広めていく必要がある。

■テーマ②20年後の石狩市はどうなっていると良いか

【現状、20年後の石狩市の姿について想像しにくい】

- ・自分の取組が、どのように未来の環境に影響を及ぼしているのかが見えず、未来の想像がしにくい。

【次世代に、より良い地域を受け継げるまち】

- ・風力発電や太陽光発電等の中でどのエネルギーが良いかを考えていくよりも、次世代により良い地域を受け継ぐことを考えたい。
- ・環境問題に対してすぐに行動に移すことは難しいので、まずは環境に対する意識を持つことが大切である。

【再生可能エネルギーの利活用を推進しているまち】

- ・石狩市は、土地が広いことから太陽光発電の設置や、海に広く面していることから波のエネルギーの利活用を積極的に行うと良いと思う。一方で、発電機等を廃棄するには処理が大変であるため、たくさん設置すればするほど良いというわけではない。
- ・風力発電機は、時間帯や太陽の向きなどで風車の影がチカチカする（シャドーフリッカー）ため、不快に感じることもあるが、人への影響が少ない小さな風車を多く建てることで、エネルギーの利活用を進めていくと良い。
- ・風力発電は、山や海の方に建てると良いが、建設地の問題が考えられる。
- ・風力発電で生産した電力を、石狩市内で消費するという構図をつくと良い。

【ごみや廃熱の利活用を推進しているまち】

- ・一番身近な燃えるごみとして「食べ物の残り物」がイメージしやすいが、堆肥にする以外の方法を町内会等でも考えられるようにしたい。
- ・ごみ処理場の処理で出てくる廃熱を暖房等に使うことで、循環型社会に繋がっていく。

【ボランティア活動の活発化や、教育から環境を考える機会を創出できるまち】

- ・市内の小中学校の宿泊学習や授業などに薪割プロジェクト等の環境体験を組み込み、自然と触れ合う機会を創出することで、学校を通じて環境を知るきっかけをつくと良い。

【市民への情報発信と理解がなされているまち】

- ・低炭素や資源循環は難しいイメージがあるため、市と市民が協力して取組を推進するためには、広報等で情報を発信するなど、市民の環境に関する理解を深めていく必要がある。
- ・リサイクルに持っていきたいが、持っていく場所がわからないことがある。
- ・石狩市の広報には、環境や低炭素、資源循環などの情報があまり載っていないと思う。

【身近なところから環境問題に取り組めるまち】

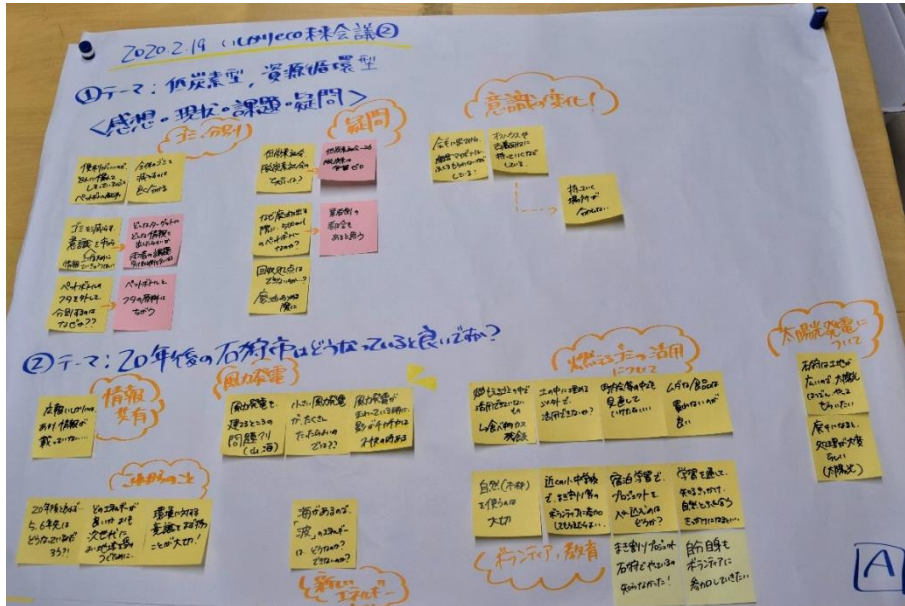
- ・石狩市エリアに限定したジモティやメルカリ等のアプリを普及させることにより、リユースが当たり前となる仕組みを作ることで、より積極的に再利用が進められると思う。

- ・石狩市独自のアプリ開発により、スマートフォンを利用したカーシェア等、今後も発展し続けるテクノロジーで、身近に環境問題へ取り組めるようになると良い。

【交通について】

- ・交通分野に関する低炭素化は、石狩市の大きな課題である。
- ・自動車の使用を抑えるために地下鉄を整備するには、多大なお金がかかってしまう。

<A テーブル模造紙>



<B テーブル模造紙>



<市民会議の様子>

